



# 読み聞かせることの大切さを見つめなおす

読み聞かせグループ「えほんのくに」



活字離れが社会問題として騒がれ始めたのは、今から10年以上も前のこと。その原因は、テレビやラジオ、インターネットなどの他メディアの躍進にあると言われてはいますが、諸説が飛び交い、定かではありません。中には「インターネットは巨大な活字媒体である」という見解もあり、この場合、活字離れの議論は、新聞や書籍など紙媒体の問題（『新聞、書籍離れ』に限定されること）になります。

こうした活字離れの解消を小中学校・高校の教育に期待する世論が形成された結果、「朝の読書」運動などが広まり、小学生の読書量は2000年代に過去最高に達したと言われていました。実際に、町内の各小学校でも朝の読書の時間が設けられています。むしろ、無読率が高止まりしているのは、50代以上の世代なのだそうです。とはいえ、大人たちから与えられた読書の時間。統計的に読書量が増加したという数字は示されているものの、果たして、どれくらいの子どもが本に集中できているのでしょうか。今回は、「子どもの活字離れをなくしたい」「想像力豊かに育ててほしい」と、昨年5月に立ち上がった読み聞かせグループ「えほんのくに」の方々に、お話を聞かせていただきました。

現在の活動内容を教えてください。

**松** 毎週、月曜日に西吉富小学校（1〜3年生）で、絵本の読み聞かせをしています。「朝の読書」の時間や職員会議の時間などを利用してしますので、10〜20分程度ですが、多いときは3〜4冊読むことができます。本の数は、子どもたちの様子を見て決めています。

**林** 子どもたちが夏休み中の8月に、新しく揃えた絵本の装丁作業※をします。子どもたちは、新しい本や綺麗な本でない、なかなか手に取ってくれません。また、本を長く使うためにも大切な作業だと思っています。手間はかかりますが、できるだけ丁寧に根気よくやっています。※書物の表紙・扉・カバーなどの体裁を整えること

## 工夫していることは

**松** できるだけ、絵本に興味がない子どもにも手に取ってもらいたくて、本の並べ方には気を遣っています。例えば、表紙が見えるように置いたり、内容を紹介したポスターをつくったり。他にも、みんな子どもたちへのプレゼントを作ったりもしています。昨年は、子ども達が書いた絵をしております。

## 読み聞かせを始めたきっかけは

**松** 5年前、新吉富保育所の保護者会主催で講師をお招きし、読み聞かせ講座を開催しました。せっかくだから自分たちも一度は実践してみようという話になり、保育所の子どもたちの前で読み聞かせをしました。真剣に聴いてくれる子ども達の顔を見てみると、読み聞かせにはとても大切な何かがあるような気がしました。

それから数年が経過したある時、西吉富小学校の刀根校長先生から、学校でボランティアをやらないかという誘いをいただきました。すかさず「読み聞かせでもいいですか」と返したところ「もちろん」とのことでしたので、当時はまだ他にメンバーがいるわけでもありませんでしたが、西吉富小学校での読み聞かせを始めることになりました。あれこれ考えるより、思い立ったら実行に移さないと気が済まない性格。結局は、自分自身が絵本好きだったことが一番なんじゃないかなと思っています。



方と協力しながら進めるしかありません。

**谷** 読み聞かせは、学校で行っているのですが、やっぱり先生の協力が必要だと思っています。先生から「絵本なんてどうでもいい」と思われてしまうと活動しづらくなってしまいます。今は、先生方の本に対する姿勢などが前向きで、とてもやりやすく感謝しています。

**松** いずれは、各学校単位で、読み聞かせグループができるといいなと思っています。現在、西吉富小と南吉富小の2校を3人でローテーションしていますが、実際、人手は十分とは言えません。今後、活動の幅を広げていこうと思ったら尚更です。

**林** 読み聞かせの活動は、続けなければ意味がないと思っています。PTAで引き継いでいくことは難しいようです。松本さんのような方が地域に必要なんだと思います。そして団体同士の横のつながりも。

## これからやってみたいことなどがあれば教えてください。

**松** お母さんたちが絵本を手に取らなければ、子どもたちも絵本を読むことはないと思います。それで、保護者の勉強会、例えば「お母さんのための絵本講座」など、やれたらいいなと思っています。他にも、装丁教室でフィルム貼りをすれば、絵本に愛着が湧いたり、興味を持ってもらえるかもしれません。自分たちもまだまだこれから。楽しみにしてくれている子どもたちのために頑張っていきます。



## 課題になっていることなどありますか

**松** 読み聞かせによい絵本選びには、いつも苦労しています。林田さんや谷元さんが読んだものを参考したり、講習会に出かけていたりしながら、勉強させてもらっています。講習会では、いろいろな人と読み合わせもできるので、自分の読み方が他の人に比べてどうかを知る良い機会なんです。

また、いつも同じ読み手だと、絵本の傾向が偏りがちになりますので、もっと読み聞かせメンバーが増えてほしいと思っています。子どもたちは慣れてくると気持が弛んできます。実は、騒ぎだした子ども達の收拾がつかなくて、やむをえず途中で打ち切り、帰ったこともあるんです。担任の先生



左から  
**林** 林田浩美さん(安雲)  
**松** 松本千津代さん(尻高)  
**谷** 谷元美さん(げんきの杜図書館司書)